富田林市文化財調査報告42

畑ヶ田南遺跡Ⅱ

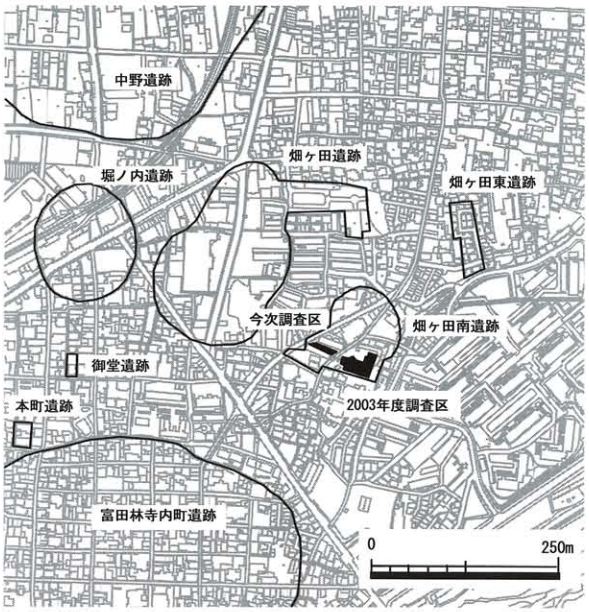
編集　富田林市教育委員会
発行　富田林市

調査地　富田林市若松町一丁目
調査面積　282㎡
調査期間　2006年2月27日～3月27日
調査担当　藤田　徹也

はじめに

畑ヶ田南遺跡は、市域のほぼ中央、石川左岸の中位段丘上に位置している。遺跡は、富田林寺内町の北側約200mと近接し、また、同遺跡内には東高野街道が通り、付近の中野遺跡、富田林寺内町遺跡、谷川遺跡などとともに、古代の遺跡として知られている。今次調査区の東側に隣接する2003年度の調査（以下、HDS2003）では、小石が敷き詰められた道路状遺構や10世紀代の掘立柱建物が検出されている。

また、調査区の北西側に展開する畑ヶ田遺跡においても数ヶ所で古代の掘立柱建物が検出されている。



遺跡周辺図

基本層序

①は、調査前の解体や整地、旧来からの盛土などの混合土である。②は5Y4/1灰色（シルト～極細粒砂）③、2.5Y4/1黄灰色（シルト～極細粒砂）に7.5YR3/3暗褐色（シルト～極細粒砂）がブロック状に混入。④、2.5Y4/2 暗灰黄色（シルト～極細粒砂）に7.5Y4/6 褐色（シルト～極細粒砂）がブッロク状で混入。⑤ 2.5Y4/2 暗灰黄色（シルト～極細粒砂）⑥ 10YR4/4 褐色（シルト～極細粒砂）⑦ 10YR3/3（暗褐色シルト～極細粒砂）であった。⑦層下は地山となっており、遺構は、全て地山面で検出した。

調査区遠景（北東から）

遺構

SB1は、調査区の北西で検出した。柱間は約1.5mで調査区外へと続くと考えられ、全体の規模は不明である。出土遺物は見られず、所属時期は不明である。

SA1は、SB1の内側に位置する。直径15cmほどの柱穴が３つ並ぶ柱列である。これらは、深さが20cm ほどあり、掘方と比較し、深度が深く、木杭などをそのまま打ち込んだ柵列などの可能性

調査区平面

が高い。出土遺物は見られず、所属時期は不明である。

SD1は、調査区東側で検出した。幅約2m、深さ約50cmを計る。断面の観察では、流水堆積等はみられず、滞水状況のまま粘質性の高い土が堆積した後、次第に埋まったものと考えられるが、途中に砕片の遺物を多く含む層が認められる。また、意図的に埋め戻しや破棄がおこなわれた可能性もあるが、断面観察からは想定の範囲をでない。

なお、SD1は、次に記すSX1に切られており、SX1を掘削する段階で、埋められた可能性も考えられる。SD1の出土遺物としては、古代の須恵器や土師器が挙げられるが、図化可能なものはなかった。

SX1は、一部撹乱によって削平を受けているが、方形状の平面形を呈し、一部は調査区南側へと延びる。深さは、約30cmである。一部掘方が、二段となり階段状になる箇所もあるが、全周するわけではなく意図的に階段状にしているかどうかは不明である。掘方の形状などから自然地形の落ち込みとは考えにくく、人為的に掘られたものであると考えられるが、遺構の性格は不明である。

遺物は、古代の須恵器や土師器が出土したが、図化可能なものはなかった。

SK1は、平面不定形状の土坑である。深さは約10cmであった。埋土は、他の遺構よりも多くレキが混入していた。出土遺物は、古代の土師器や須恵器が出土したが、図化可能なものはなかった。

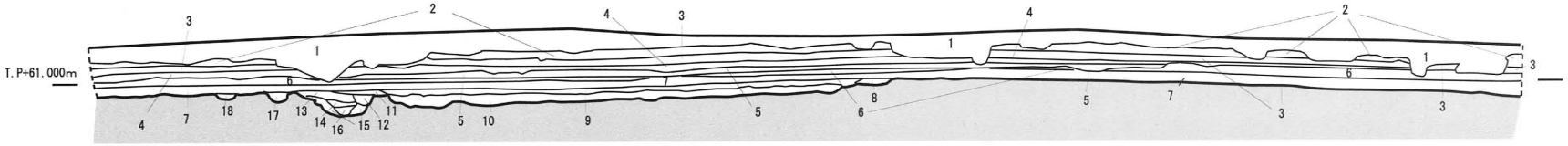
まとめ

今次調査区は、2003年度におこなわれた市営第一住宅建設に伴う発掘調査区（HDS2003）の道路を挟んで向かい側である。HDS2003で検出した道路状遺構西側の検出を期待したが、それを確認することはできなかった。したがって、HDS2003で確認した道路状遺構の西端は、現在の東高野街道内で収まるものと推定できる。

また、地山面の高低差も確認できた。つまり、現東高野街道の東側であるHDS2003調査区で検出した地山面は標高約62mであるのに対し、西側の今次調査区の標高は約61mであり、おおよそ1mの高低差がみられる。互いの調査区は10mにも満たない距離しか離れておらず、現東高野街道や、HDS2003 で検出された道路状遺構は、一段高い所に敷かれていたものと考えられる。

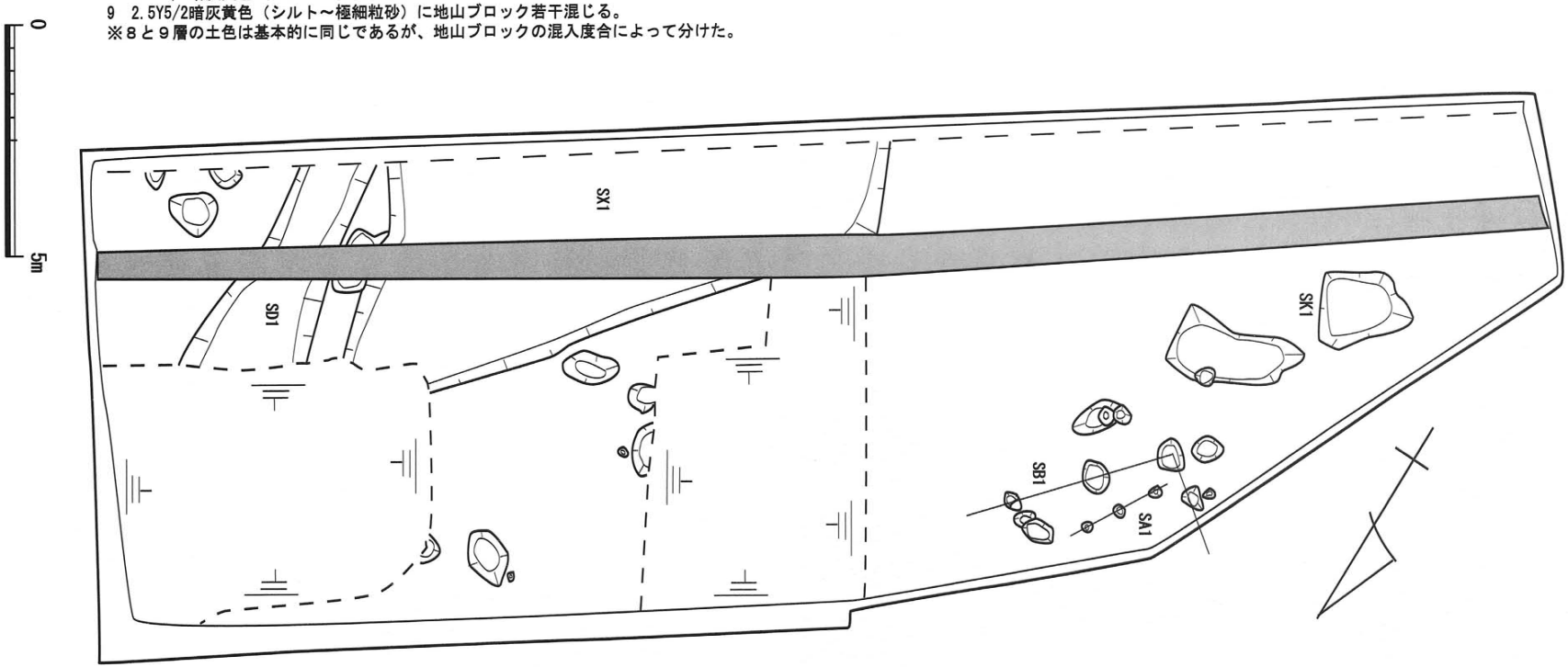
今次調査区から出土した遺物は、いずれも砕片のみであり実測可能なものがなかったため、詳細な所属時期は不明である。また、各遺構についても、その性格を深く言及するには至らなかった。しかしながら、大まかな時期や地形的には、近接する畑ヶ田遺跡と同様の傾向を呈する。

畑ヶ田遺跡は、数ヶ所の調査区において古代に帰属する建物跡が検出されており、比較的広範囲に展開する集落であることが確認されている。これらの検討の中で今次調査区の位置付けをする必要があると考えられる。今後の調査や報告に期待したい。



1　盛土
2　5Y4/1灰色（シルト～極細粒砂）
3　2.5Y4/1黄灰色（シルト～極細粒砂）と7.5YR3/3（シルト～極細粒砂）が斑状に混じる
4　2.5Y4/2暗灰黄色（シルト～極細粒砂）と7.5YR4/6褐色（シルト～極細粒砂）が斑状に混じる
5　2.5Y4/2暗灰黄色（シルト～極細粒砂）
6　10YR4/4褐色（シルト～極細粒砂）1mm～2mmのレキ少量混じる
7　10YR3/3暗褐色（シルト～極細粒砂）2～5cmのレキ混じる
8　2.5Y5/2暗灰黄色（シルト～極細粒砂）に地山ブロック混じる
9　2.5Y5/2暗灰黄色（シルト～極細粒砂）に地山ブロック若干混じる。
※８と９層の土色は基本的に同じであるが、地山ブロックの混入度合によって分けた。
10　2.5Y5/2暗灰黄色（シルト～極細粒砂）に7.5YR3/4暗褐色（シルト～極細粒砂）混じる
11　10YR4/2灰黄褐色（シルト～粘土）に地山ブロック混じる
12　10YR4/2灰黄褐色（シルト～極細粒砂）に10YR3/3暗褐色（シルト）混じる
13　10YR5/1褐灰色（極細粒砂～細粒砂）
14　10YR5/1褐灰色（極細粒砂～細粒砂）に2.5Y5/2暗灰黄色（シルト～極細粒砂）混じる
15　2.5Y5/1黄灰色（シルト～粘土）
16　2.5Y5/1黄灰色（シルト～粘土）に2.5Y6/1黄灰色（極細粒砂～細粒砂）混じる
17　7.5YR3/4暗褐色（シルト～極細粒砂）1～2cmのレキ少量混じる
18　7.5YR3/4暗褐色（シルト～極細粒砂）2～3cmのレキ混じる

遺構平面図



報告書抄録

ふりがな	はたけだみなみいせき　に
書　　名	畑ヶ田南遺跡Ⅱ
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	富田林市文化財調査報告
シリーズ番号	42
編 著 者 名	藤田徹也
編 集 機 関	富田林市教育委員会
所 在 地	〒584－8511　大阪府富田林市常盤町1番1号　℡0721－25－1000(代)
発行年月日	2009(平成21)年３月１日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はたけだみなみいせき 畑ヶ田南遺跡	とんだばやしし 富 田 林 市 わかまつちょういっちょうめ 若松町一丁目	27214	159	34° 30′ 11″	135° 36′ 20″	2006. 2. 27 ～ 2006. 3. 24	282	市営第二住宅 建設に伴う

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
畑ヶ田南遺跡	集落跡	弥生～中世	掘立柱建物、柵列、溝、ピット、土坑	土師器、須恵器	

2008. 300.